

本時のねらい

- ・スライドに写真やキーワードを用いる等し、聞き手がわかりやすいように工夫して、お気に入りの場所について英語で発表することができる。
- ・発表を聞いて、もっと聞いてみたいことや気になったことなどについて、簡単な英語で書くことができる。
- ・発表についての質問などについて、英語による即興で答えることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・発表者が Keynote を用いて写真やキーワードを取り入れることで、聞き手にとって、視覚的に理解しやすいプレゼンテーションを作成することをねらった。
- ・聞き手が授業支援ソフト（ミライシード）を活用することで、発表に対する質問や感想をクラス全体ですぐに共有することをねらった。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・プロジェクタ
- ・Keynote
- ・授業支援ソフト（ミライシード）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○英語であいさつを行い、日付や時間、既習事項についての簡単な質問に対して英語でやりとりを行う。 ○発表に向けて、グループで練習を行い、お互いの良い点や改善するとともに良くなる点について伝え合う活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本番同様、作成したスライドを相手に見せながら、声の大きさや発話スピード、身振り手振りなど、相手がより理解しやすいように伝えるための工夫を取り入れるよう促す。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの前で、作成したスライドを提示しながらお気に入りの場所について、英語でのスピーチを行う。 ○発表内容について、もっと知りたいことや発表者に聞きたいことなどについて、授業支援ソフト（ミライシード）に記入し、クラス全体で共有する。 ○発表者は、質問について英語で回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを提示しながら発表することで、効果的に内容を聞き手に伝えることができる。 ・発表している内容と提示しているスライドの写真やキーワードが合うように、身振り手振りを取り入れることで、聞き手が理解しやすい発表となることを伝える。 ・授業支援ソフト（ミライシード）を用いることで、聞き手が発表内容について、もっと知りたいことをすぐにクラス全体で共有することができる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○発表について、良かった点や次回の発表で気をつける点について、気づいたことを振り返りシートに記入する。 ○英語であいさつを行う。 	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1：発表に向けてグループで練習し、良い点や改善点について伝え合っている様子



写真2：自分のお気に入りの場所について、友だちに発表している様子



写真3：発表について、もっと知りたいことについて、グループで話し合っている様子

児童生徒の反応や変容

- ・Keynote を活用してのプレゼンテーションは、3回目だった。聞き手が、発表内容とスライドの写真やキーワードを合致しやすいよう、アニメーションをつけたり、発話スピードを工夫したりして、わかりやすい発表となるよう心がける生徒が増えてきた。
- ・授業支援ソフト（ミライシード）を活用することで、全員の質問や感想を容易に確認できるようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

以前は、発表者に対して、他の生徒が1人で質問を考えるようにしていたが、英語で質問することが難しい生徒もいた。そこで、個々の質問をグループで共有する形式に変更した。それにより、英語で質問することが難しい生徒でも、グループ内で教えてもらうことにより、英語で質問できるようになった。